

訪問報告書

平成 23 年 2 月 26 日

長野県下伊那郡 阿智村役場
阿智村立清内路小学校
清内路地区の皆さま

お世話になりました！

名古屋大学大学院 国際開発研究科
教育・人材開発プログラム 山田ゼミ生



後列左から蛭川麻里子（日本）、島津侑希（日本）、劉靖（中国）、藤本めぐみ（日本）、Zang Yana（中国）、斉藤健介（リーダー、日本）

前列左から Leang Sokhom（カンボジア）、池田敬子（日本）、Pen Sothea（カンボジア）、山田

阿智村及び阿智村立清内路小学校への訪問を下記の通り報告します。

記

1. 実施期間

平成 23 年 2 月 8 日 ～ 平成 23 年 2 月 9 日

2. 訪問施設

阿智村立清内路小学校

3. 参加者

大学院国際開発研究科学生 8 名（留学生 4 名、日本人 4 名）

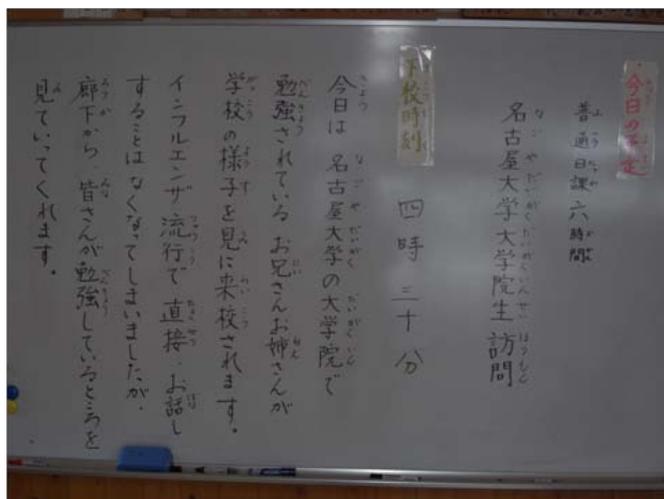
大学院国際開発研究科科目履修生 1 名

● 授業・学校見学

清内路小では、一人の教員で複数のクラスを担当する複式学級を行っている。同校の授業運営方法から日本の農村部の小学校が抱える問題を考えるために、国際開発研究科に所属する上記学生と授業観察を行なう。

残念ながらインフルエンザの感染予防のために直接教室に入り授業を見学することはできなかったが、全学年の授業や特別授業教室などの施設を見学した。

写真① 今日の予定に書かれた名古屋大学院生訪問の知らせ



写真② 社会科の授業

6年生の教室では社会科の授業で日本と他の国がどのようなかわりがあるかを学習していた。子どもたちが調べ学習を通じてアメリカ、イギリス、ドイツと日本とのかかわりを事前に調べ、それに対して先生が説明を行ないながらそれぞれの学習成果を発表していた。6年生の担任の先生からは、今回留学生が清内路小に訪問するということで、日本がその他の国とどのようにかかわっているのかを学んで欲しかったとのお話を伺った。

- 校長先生による学校紹介

清内路小学校の校長先生より学校目標や毎月の学校行事について写真を交えて紹介していただいた。その紹介を通じて、清内路小が行っている小規模校の良さを生かした学習や保護者や地域の方を巻き込んで行なう地域の伝統・良さを生かした学習など特徴的な取り組みについての理解を深めた。

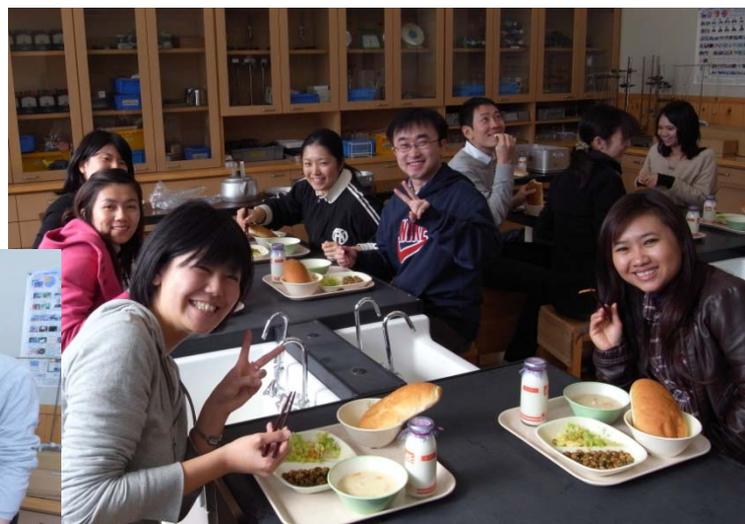
特に清内路小では地域の方と一緒に子どもたちの教育に力を入れて取り組んでいる様子が伺えた。地域の伝統食を学ぶ授業では女性たちが中心となり授業に協力し、運動会では子どもたちだけでなくその地域の方々がグループを作り参加している様子などから、学校がその地区の拠点となっているようであった。また毎月のように保護者や地域と交流を持つために準備を行なっている教員の方々の姿勢に参加者一同頭が下がる思いであった。



写真③ 校長先生の学校紹介の様子

- 給食

留学生にとっては初めて、日本人の学生にとっても久しぶりの給食。自分たちで準備、片付けをするのも新鮮だった。



写真④、⑤ 給食風景

● 先生方との意見交換

私たち学生が用意した質問について、清内路小学校の校長、教頭、教務主任の3人の先生が答えてくださり、意見交換会をした。学生からの質問は以下の内容だった。

1. 学校行事の予算について
2. PC教育を始めた意図について
3. 清内路小が行っている特徴的な取り組みについて
4. 学校交流における他校との関係について
5. 学校交流の提案者について
6. 飯田・下伊那地区での教員間の交流について
7. 阿智村への合併前後の学校への影響について
8. 年間の保護者参観日について

上記の質問から同校が行っている取り組みの一端を垣間見ることができた。学校長の学校紹介でのプレゼンの中でもあったように、教員数と生徒数が少ない清内路小学校では地域の方と周辺校との協力が非常に密接であり、またその連携が必要とされていると理解した。同校では、粘り強く追及しあう子どもの育成、自分を発揮し多くの人と関われる子どもの育成、地域に開

かれた学校づくりを目標として、それらの目標達成のために地域の方との交流を活発に行ない、子どもたちがより積極的になるために多くの人と関わる機会を提供していることを学んだ。



写真⑥ 交流は出来なかったけど…子どもたちに手作りのアクセサリをもらいました！

● 清内路地域の人々との交流と民泊

写真⑦ 地域散策の様子

学校での交流の後は、留学生及び日本人学生と村との相互学習と理解を促進する目的で、ボランティアの案内人である岡本さんと共に清内路地区を散策した。岡本さんと歩きながら昔からある黒船桜、春になると一面に咲くはなもも、岩の形が観音様の顔に見える滝など清内路地区の歴史と自然を教えていただいた。また散策を通じて山間である清内路地区に住む方々の生活の工夫なども知ることができた。散策の後は学生3名ずつ清内路地区の一般の家庭に民泊をさせていただいた。それぞれの家庭では、一緒に温泉に入り、その家の方が作ってくれたご飯を頂くなどすべての参加者にとって思い出深い一日となった。一人暮らしをする学生にとって今回の民泊は本当の家族と過ごしている時間の様に感じられた。



4. 参加者からの感想

- 教材や施設に関して

村落部の小さな学校にもかかわらず、パソコン等の機材設備や特別授業教室等の施設がとても充実していて驚きました。特に留学生は自分の国の農村部の小学校と比較して、パソコンがほぼ一学年すべての子どもの台数あること、教室内に置かれたテレビを授業で使用していること、音楽室・家庭科室があることなどに、大変衝撃を受けたようでした。

- 先生方および授業に関して

先生方の数が少ない中で、多くの行事や学校交流を行なっている清内寺小学校の姿勢に感銘を受けました。先生方のお話を伺って、地域の人たちと一緒に郷土料理を作ったり、お年寄りを小学校に招いたり等、地域の伝統を生かした行事を行うことは、生徒が地域の伝統を知る上で非常に重要な活動であるということ学びました。また、「大きな集団の中で自己表現できる児童を育てたい」という目的のもと、学校交流を通して生徒に多くの子供たちと接する機会を提供しようという先生方の気持ちを知ることができました。しかし、先生方の負担の大きさを心配する意見もありました。全体的に、少人数制を生かした学習形態で、先生と生徒の距離が近く、清内寺小学校は勉強しやすい環境であるという印象をもちました。また、廊下に飾ってある生徒さんの作品(写真)は創造性豊かな作品が多く、見ていてとても面白かったです。留学生の中からは、清内路小学校が行っている取り組みが、今後自分達の国の農村部の小学校で生かすことができないか模索したいという意見がでました。

- 今後の交流について

今回は、残念ながらインフルエンザの影響で生徒さんたちと直接話をする機会がなかったのですが、休み時間にあいさつをしに来てくれたり、授業中に笑顔で手を振ってくれたり、少しでも交流ができたことがとてもうれしかったです。生徒さんに頂いた手作りの小物は、大学院の自分たちの机に飾っています。次回はインフルエンザの季節を避けて、直接生徒さんと交流ができると良いと思います。引き続きよろしくお願い致します。

- 阿智村と清内路小学校の皆様へ

今回は度重なる変更があったにも関わらず、温かく迎えてくださり、本当にありがとうございました。準備や手配をしてくださった皆様に、参加者一同心から感謝しております。阿智村役場の林課長には、企画段階から参加者が帰る最後まで気にかけて頂き、大変お世話になりました。また校長先生、教頭先生、山下先生をはじめ、清内路小学校の皆様のおかげで、大変楽しい時間を過ごすことができました。色々とお迷惑をお掛けしてしまいましたが、今後も交流が続けられればと思っております。最後になりましたが、ホームステイを受け入れてくださった清内路地区の皆様、私たちを温かく迎え入れてくださり、本当にありがとうございました。またお会いできる日を楽しみにしております。